

令和元年度 第 11 回広島市感染症対策協議会

令和 2 年 3 月 16 日

【日 時】 令和 2 年 3 月 16 日（月）19:00～20:00
【場 所】 広島市役所 14 階第 7 会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、高橋 宏明、佐藤 貴、新甲さなえ、
堂面 政俊、増田 裕久、藤本 三喜夫、長岡 義晴、松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報《公開》

（1）新型コロナウイルス感染症に係る対応について（資料 1 P1～19）

令和 2 年 3 月 6 日、本市において初めて新型コロナウイルス感染症患者在が報告された。本市では、患者発生を感知した後、速やかに、患者の行動履歴を確認し、濃厚接触者あるいはその可能性のある者に対し、患者との接触状況の把握などを行う積極的疫学調査を実施し、この調査結果をもとに、同居家族や職場の同僚、医療機関の従事者計 7 名を濃厚接触者とし、毎日の体温確認等を行う健康観察と不要不急の外出の自粛要請を行った。

また、濃厚接触者等 8 名に対し、衛生研究所で PCR 検査を実施し、全員の陰性を確認した。現在のところ、当該患者からの感染の広がりは確認されていないが、引き続き、濃厚接触者の健康観察を継続するとともに、必要に応じて感染が疑われる者へは検査を実施することとしている。なお、患者は、3 月 7 日に感染症指定医療機関である舟入市民病院に入院し治療を受けていたが、3 月 11 日に国が定めた退院の基準を満たしたため退院した。

本市においては、患者発生前の 2 月 26 日に、市長を本部長とする「広島市新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、これまで 3 回（2/26、3/7、3/11）の本部員会議を開催し、感染拡大防止にかかる本市の対策を協議・決定するとともに、各局等の対応状況等について情報共有を行っている。

また、2 月 26 日には、「本市主催のイベント等の開催に関する基本方針」を決定（3 月 11 日には運用期限を 3 月 29 日まで延期）し、多くのイベント等の開催を中止・延期するとともに、本市の多くの所管施設についても臨時休館を行っている。さらに、3 月 2 日からは国の要請に基づき、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等を臨時休業としている。

国内の患者発生は増加傾向にあり、国内の複数地域で感染経路が明らかではない患者が散発的に発生しており、一部地域においては小規模な患者クラスター（集団）が把握されるなど、予断を許さない状況が続いている。

本市においては、引き続き、市民に対し、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることは避け、咳エチケットやこまめな手洗いを心掛けるよう啓発するとともに、発熱など風邪症状を自覚した場合には仕事等を休み、不要不急の外出を自粛し、症状が長引く場合には、相談窓口へ連絡するよう周知していく。

（委員意見）

- ・ 患者が発生した際には、行動履歴の把握や濃厚接触者の調査等、迅速な対応をお願いする。
- ・ 患者クラスター（集団）が発生しないよう、引き続き、市民に対し、人が密に集まって過ごすような空間に集まることは避け、咳エチケットや手洗いを励行するよう啓発を行ってほしい。

(2) 乾燥ヘモフィルス b 型ワクチン（販売名：アクトヒブ）の供給遅延の解消について（資料 1 20～25）

供給が遅延していたサノフィ株式会社が製造販売するアクトヒブについて、令和 2 年 2 月、サノフィ株式会社による調査等が完了し、アクトヒブの供給遅延が解消されることとなった旨の報告があった。

遅延原因となったシリンジ容器の錆の発生原因については、複数の要因が重なることにより偶発的に発生したものと結論づけられており、出荷前の抜き取り検査を強化することとしている。

また、シリンジ容器の針の錆による健康影響については、局所的な炎症反応等が生じる可能性は否定できないものの、全身性又は重篤な健康影響が生じる可能性は低いと考えられ、また、当該事例に起因すると考えられる健康被害の報告はない。

今後のワクチンの使用については、厚生労働省はサノフィ株式会社に対し、抜本的な解決に向けて添付溶剤をバイアル等の別形態に切り替えるなどの対応を行うよう指導するとともに、医療機関に対しては、アクトヒブの添付溶剤を使用する際には、引き続き、目視等にて注意深く確認するよう依頼している。

（委員意見）

- ・ 供給遅延が解消されたとのことで安心した。
- ・ 今回の供給不足に伴い、定期接種が出来なかった児に対しての接種についての対応をお願いしたい。

2 2 月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料 2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病 名	令和2年2月分	令和2年3月分
		報告日 2/3～3/1	報告日 3/2～3/10 現在
2類	結核	15人 (結核9人、潜在性結核6人)	
4類	E型肝炎	2人 (2/12、2/21)	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4人 (2/17、2/21、2/25、2/27)	1人 (3/10)
	急性脳炎	1人 (2/10)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3人 (2/3 (2人)、2/10)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	4人 (2/6、2/12、2/19、2/20)	3人 (3/2、3/4、3/9)
	梅毒	9人 (2/3 (4人)、2/6、2/10)	
	百日咳	11人 (2/10、2/12、2/14、2/18、2/19、2/25、2/26、2/27、2/28 (3人))	2人 (3/2、3/6)
指定感染症	新型コロナウイルス感染症		1人 (3/6)

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和2年4月20日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：2月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、2月は1,848人で、前月比0.56と減少した。

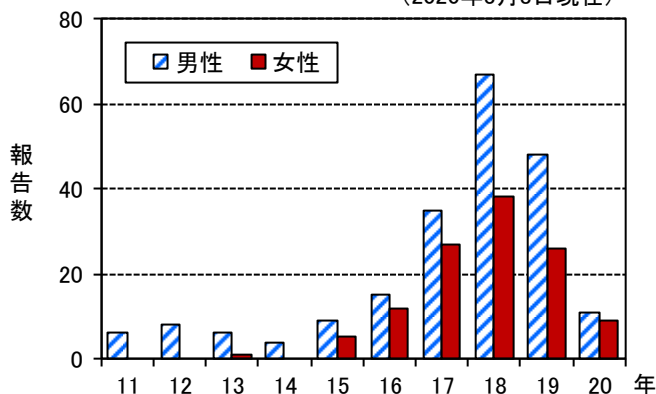
突発性発しんは増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症はやや増加、咽頭結膜熱、水痘はほぼ横ばい、感染性胃腸炎はやや減少、伝染性紅斑は減少、インフルエンザは大きく減少した。

(2) 特記事項

- 全国的に新型コロナウイルス感染症の報告が続いており、広島市においても、3月6日に1件の報告があった。感染予防には、健康管理に注意し、流水・石けんによる手洗いや咳エチケットなどの対策が重要である。なお、発熱等のかぜ症状がみられる場合には外出を控え、かぜの症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続く（高齢者や基礎疾患等のある方、妊娠中の方は2日程度続く）場合、倦怠感や呼吸困難がある場合には、相談窓口（健康推進課又は各区の保健センター）に連絡し、その指示に従うことが重要である。
- 梅毒の今年の累計報告数は、3月8日現在、20件（昨年同時期の約1.3倍）となった。20～30代に多く、男女ともに20代が最も多くなっている。感染が疑われる症状がみられた場合には、早期に医療機関を受診することを勧める。なお、広島市では、各区の保健センターで無料・匿名検査を実施している。
- インフルエンザは、第10週（3月2日～3月8日）に定点当たり3.25人の報告があった。第5週（1月27日～2月2日）以降、報告数は減少しているが、引き続き、手洗いや咳エチケットの励行など感染予防対策を心がけることが大切である。

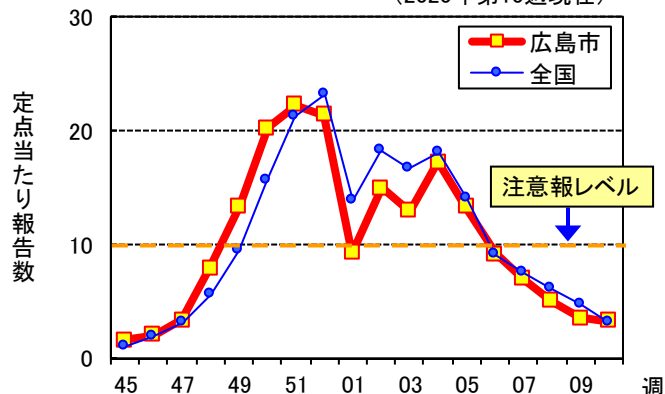
広島市における梅毒の年間報告数の推移

（2020年3月8日現在）



インフルエンザ定点当たり報告数

（2020年第10週現在）



(3) 2月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 15件（患者：9件、潜在性結核：6件）
- 3類感染症：なし
- 4類感染症：E型肝炎 2件
- 5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4件
 - 急性脳炎 1件
 - 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3件
 - 侵襲性肺炎球菌感染症 4件
 - 梅毒 9件
 - 百日咳 11件

(4) 今後の流行予測

インフルエンザ・・・・・・【流行終息傾向】

2 検査情報

2月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	*インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	2019 年 12 月	1 人
	*アデノウイルス 6 型		
	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	2020 年 1 月	6 人
	B 型インフルエンザウイルス	2019 年 12 月	1 人
	B 型インフルエンザウイルス	2020 年 1 月	2 人
感染性胃腸炎	サポウイルス	2020 年 1 月	1 人
	ノロウイルス GⅡ	2020 年 1 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 56 型	2019 年 12 月	1 人
その他の呼吸器疾患（上気道炎）	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	2019 年 12 月	1 人
	ヒトメタニューモウイルス	2020 年 1 月	1 人
	ライノウイルス	2020 年 1 月	1 人
その他の消化器疾患（腸重積症）	パレコウイルス 3 型	2019 年 12 月	1 人
	アデノウイルス 2 型	2019 年 12 月	1 人
	アデノウイルス 2 型	2020 年 1 月	1 人
	アストロウイルス	2020 年 1 月	1 人
	アデノウイルス 1 型	2020 年 1 月	1 人
	アデノウイルス 31 型	2020 年 1 月	1 人
その他の消化器疾患（嘔吐）	ノロウイルス GⅡ	2020 年 1 月	1 人
その他の疾患（不明熱）	RS ウイルス	2019 年 11 月	1 人
	パレコウイルス 3 型	2019 年 11 月	1 人
	エコーウイルス 18 型	2019 年 12 月	1 人
	アデノウイルス 3 型	2020 年 1 月	1 人

*：複数病原体検出例

27 人の患者から 16 種類のウイルス 28 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型 8 株、B 型インフルエンザウイルス 3 株、アデノウイルス 2 型、ノロウイルス GⅡ、パレコウイルス 3 型各 2 株、RS ウイルス、アストロウイルス、アデノウイルス 1 型、同 3 型、同 6 型、同 31 型、同 56 型、エコーウイルス 18 型、サポウイルス、ヒトメタニューモウイルス、ライノウイルス各 1 株であった。

5類感染症定点情報
(令和2年2月解析分)

1. 週報対象(第6週～第9週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		904	24.67		10	流行性耳下腺炎		2	0.09	
2	咽頭結膜熱		39	1.66		11	RSウイルス感染症		46	1.97	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		187	7.98		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎		527	22.37		13	流行性角結膜炎		13	1.64	
5	水痘		37	1.57		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		5	0.21		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		34	1.44		16	マイコプラズマ肺炎		12	1.72	
8	突発性発しん		28	1.19		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		1	0.04		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	

2. 月報対象(2月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		44	4.89
2	性器ヘルペスウイルス感染症		13	1.44
3	尖圭コンジローマ		6	0.67
4	淋菌感染症		28	3.11
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		12	1.71
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1	0.14
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和2年2月分)

第6週～第9週(2月3日～3月1日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ペスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	15	24	1,355	2,776
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	4	17
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	3	91	194
	18 腸チフス	-	-	5	7
	19 パラチフス	-	-	-	1
四類	20 E型肝炎	2	2	55	98
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	-	14	35
	23 エキノコックス症	-	-	1	4
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	2
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	-	-
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	1	1
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	3	4
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	1	2
	40 つつが虫病	-	-	3	56
	41 デング熱	-	1	8	28
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	3	6
	46 日本脳炎	-	-	1	1
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	1	1
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	-
	55 マラリア	-	-	2	7
	56 野兔病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	1
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	-	2	118	248
	62 レプトスピラ症	-	-	-	1
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	-	2	45	90
	65 ウイルス性肝炎	-	-	25	38
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	5	120	247
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	3	5
	68 急性脳炎	1	3	48	188
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	1
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	6	17
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	4	65	169
	72 後天性免疫不全症候群	-	2	79	154
	73 ジアルジア症	-	-	4	5
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	2	29	96
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	8
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	4	4	197	517
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	37	77
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	1
	79 梅毒	9	19	401	861
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	10	19
	81 破傷風	-	-	6	11
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	12	21
	84 百日咳	11	18	688	1,377
	85 風しん	-	-	23	56
	86 麻しん	-	-	2	6
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	2	2
指定	88 新型コロナウイルス感染症	-	-	734	734